

2018 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 <講義録 6 限目>

<<講座のメインテーマ>>

防災・減災は地域の取り組みが
決め手！その具体的な進め方

記録：講座協力委員 中村 誠

◆開催月日：2018 年 11 月 15 日(木) 13:30~17:00

◆開催場所:KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半:『ゼロからスタートした自主防災活動！！ その後は？ 2016 年 10 月、
当養成講座発表以降・・・定着？進化？停滞？それとも衰退？』

講師:稲垣 博正 氏 (横浜市旭区南笹野台自治会副会長)

・後半:『受講者によるグループワーク』 ~我が地域防災への取組み決意~

進行:高松 清美 氏 (NPO法人よこはま・七つ星代表)



講師：稲垣 博正氏

<<2016 年養成講座で何を語ったか？>>

- 市提出名簿は名前記載のみ、町会倉庫には防災品ゼロ、25 年間単独訓練ゼロ
- 2014 年 7 月、9 人で勉強会からスタート、以降 21 ヶ月毎月開催
- 2015 年 5 月防災アンケート：①「安心世帯カード（個人情報）」
②「自助実施状況とお助け情報」
- 2015 年 10 月：自主防災組織として「減災センター」設立
自治会役員でない主婦と退職者中心の組織、役員の任期は 3 年
- 各種準備と機材購入（各種計票・リスト、スタンドパイプ、トランシーバー等）
- 2016 年 4 月：減災活動を自治会認定組織・活動として総会決議

<<南笹野台自治会の減災活動は、どうなった？>>

- 減災センター役員の改選：46 人→「56 人」体制で再編・継続
「減災安心アンケート」に回答のあった「消火活動・救出救護活動に協力できる人」を役員に！
 - 安否確認（減災）訓練のみを「安否確認全戸訪問」に
確認内容：「在宅者数」・「消火器玄関前」・「黄色の安全タオル掲示」
「在宅世帯中の訓練参加世帯 100%」に！
 - 訓練の実戦化:安否確認訓練 + 実働隊訓練 + トランシーバー通信を同時並行して実施
*実働隊訓練：スタンドパイプ放水訓練、担架・リアカーでの救出・救護訓練
減災センターと実働隊との連絡はトランシーバー使用
- ☆参加協力の消防署から「ここまで出来ているのは珍しい」との講評のことば

<<残された課題>>①弱者への視点 ②地域連携 ③世代間継承 添付資料は自由に利用して下さい！！

『グループワーク討議・発表』 テーマ：我が地域防災への取組み決意

<<グループ発表から抜粋>>

- 地域防災拠点訓練は、地域住民であっても自治会非会員は参加出来ない。非会員であっても参加出来るようにすべき
 - 自主防災隊活動に取り組む。地域に働きかけたい
 - 地域の防災コーディネーターになる
 - 1 週間は生き延びられる備えをしたい
- <<進行:高松さん・講座を活かして一歩でも踏み出して欲しい>>

第 6 回アイスブレイク

『災害時に被災した家屋の応急判定』

- 危険度判定(赤・黄・緑)
- 罹災証明書について(全壊・大規模半壊・半壊・一部損壊・浸水)
- 一部損壊では仮設住宅に入居出来ない
- 被災直後、写真等記録を残しておくことが大切

田中 晃さん



進行:高松 清美さん

荏本 塾長と受講者全員



<<荏本孝久塾長 講評>> 13 年前開講の時は、「自助・共助・公助」という言葉自体が新しかった。地域の自主防災活動について話が聞ける講座は、他にはありません！！防災は待っているはダメです。地域の防災・減災について、もっと！もっと！！話をさせていただきたい！！